

『スタンダード 工学系のベクトル解析』 (第1刷～第2刷) 訂正表

ページ	位置	各刷の記述	訂正
4	1.3 節の 2 行目	1 刷 ベクトル \mathbf{a} の大きさは絶対値の記号を用いて $ \mathbf{a} $ で表す。	ベクトル \mathbf{a} , \overline{AB} の大きさは絶対値の記号を用いて $ \mathbf{a} $, $ \overline{AB} $ で表す。
	最終行	1 刷 これを零ベクトル(ゼロベクトル)といい $\mathbf{0}$ で表す。	これを零ベクトル(ゼロベクトル)といい $\mathbf{0}$ で表す。この零ベクトルは方向をもたない。
6	本文 2 行目	1 刷 負の値との和 \ominus 考えればよい。	負の値との和を考えればよい。
7	例題 1.3(1) の 2 行目	1～2 刷 $\mathbf{a} + 2\left(\frac{1}{2}\mathbf{b} \ominus \mathbf{c}\right)$	$\mathbf{a} + 2\left(\frac{1}{2}\mathbf{b} + \mathbf{c}\right)$
8	答(1)の右の図	1～2 刷 $\mathbf{a} + 2\left(\frac{1}{2}\mathbf{b} \ominus \mathbf{c}\right)$	$\mathbf{a} + 2\left(\frac{1}{2}\mathbf{b} + \mathbf{c}\right)$
9	下から 3 行目	1 刷 座標情報を用いて \ominus	座標情報を用いた
22	4.1 節の 5 行目	1 刷 成分を用いて \ominus	成分を要素にもつ行列式を用いて
47	例題 7.3 答(2)の式 2 行目	1 刷 $= (\nabla(x^2 + y^2 + z^2)) \times \mathbf{A} \ominus$	$= (\nabla(x^2 + y^2 + z^2)) \times \mathbf{A} + \mathbf{0}$
48	問題 7.3(3)	1 刷 $\nabla \times (\log r \mathbf{C}) \ominus$	$\nabla \times \{(\log r) \mathbf{C}\}$
60	9.3 節の 6 行目	1 刷 線分 \ominus ds とすると,	線分の極限を ds とすると,
	上記に続く式	1 刷 $s \ominus \int ds$	$s = \sum \Delta s = \int ds$
92	問題 14.1(4) 最終行	1 刷 $\int_S \frac{\mathbf{p}}{ \mathbf{p} ^3} \cdot d\mathbf{S} = 4\pi$	$\int_S \frac{\mathbf{p}}{ \mathbf{p} ^3} \cdot \mathbf{n} dS = 4\pi$
102	問題 14.1(4) 最終行	1 刷 $\int_S \frac{\mathbf{p}}{ \mathbf{p} ^3} \cdot d\mathbf{S} = 4\pi.$	$\int_S \frac{\mathbf{p}}{ \mathbf{p} ^3} \cdot \mathbf{n} dS = 4\pi.$
	問題 15.1(2) 最終行	1 刷 $\oint_C \nabla \phi \cdot d\mathbf{p} = 0.$	$\oint_C (\nabla \mathbf{p}) \cdot d\mathbf{p} = 0.$

ご迷惑をおかけして申し訳ございません。上記訂正をお願いいたします。お手元の本の刷は奥付でご確認いただけます。書籍の内容およびこの訂正表に関するお問い合わせは(株)講談社サイエンティフィック (03-3235-3701) をお願いいたします。